会　　議　　録

<table>
<tr><td>会　議　の　名　称</td><td colspan="4">平成２７年度第２回小川町地域公共交通活性化協議会</td></tr>
<tr><td>開　催　日　時</td><td colspan="4">平成２７年１１月３０日（月）
開会時刻　午前９時４５分　　閉会時刻　午前１１時３０分</td></tr>
<tr><td>開　催　場　所</td><td colspan="4">リリックおがわ　２階会議室</td></tr>
<tr><td rowspan="12">出　席　者</td><td>役職名</td><td>氏名</td><td>役職名</td><td>氏名</td></tr>
<tr><td>会長</td><td>尾崎　晴男</td><td>副会長</td><td>福田　弘昌</td></tr>
<tr><td>監査委員</td><td>山岸　幸男</td><td>監査委員</td><td>小久保　文雄</td></tr>
<tr><td>委員</td><td>山﨑　浩司</td><td>委員</td><td>石川　浩行</td></tr>
<tr><td>委員</td><td>宮﨑　信二</td><td>委員</td><td>亀屋　信正</td></tr>
<tr><td>委員</td><td>広井　智</td><td>委員</td><td>渡部　学（代理）</td></tr>
<tr><td>委員</td><td>神原　正夫</td><td>委員</td><td>堀米　康史</td></tr>
<tr><td>委員</td><td>田端　健二</td><td>委員</td><td>柳田　祐之（代理）</td></tr>
<tr><td>委員</td><td>髙野　寿久</td><td>委員</td><td>山口　勝士</td></tr>
<tr><td>委員</td><td>小澤　禄郎</td><td>委員</td><td>村上　紀子</td></tr>
<tr><td>委員</td><td>安野　育男</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>会　議　の　議　題</td><td colspan="4">(1)　小川町地域公共交通網形成計画（素案）について</td></tr>
<tr><td>会議の公開又は非公開の別</td><td colspan="4">公開</td></tr>
<tr><td>会議の非公開の理由</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td>傍　聴　人　の　数</td><td colspan="4">19名</td></tr>
<tr><td>発　言　の　内　容</td><td colspan="4">別紙「発言の要旨」のとおり</td></tr>
<tr><td>会　議　資　料</td><td colspan="4">別紙のとおり</td></tr>
<tr><td>事　務　局</td><td colspan="4">都市政策課 都市政策担当</td></tr>
<tr><td rowspan="2">議事の確定</td><td>確定
年月日</td><td colspan="3">平成　２８　年　１　月　４　日</td></tr>
<tr><td>記名
押印</td><td colspan="3">役職名
　会長　　尾崎　晴男　　㊞</td></tr>
</table>

別　紙

発言者	発言の要旨
	(1)　小川町地域公共交通網形成計画（素案）について **【公共交通の課題、将来像について】** ～　事務局より「資料１：小川町地域公共交通網形成計画（素案）公共交通の課題、将来像」の説明　～
尾崎会長	前回は現状を踏まえ、課題までを提示して頂いた。今回は、課題を解消していくための 4 つの目標と将来像が提示された。まずは、目標及び将来像に関するご意見を頂きたい。
山口委員	基本的な事項について確認したい。 今回はじめて各地区の状況について説明して頂いた。竹沢・八和田地区等は予想通りの結果であった。大河地区に関しては「既存サービスの充実が求められている」と書かれているが、これは大河地区の既存路線である東秩父村からのバス路線をイメージしているという認識で良いのか。東秩父村からの路線バスは本数が少なく、土日の観光客を除けば町民の利用者は少ないと思う。そのような状況の中で、本当に既存路線の充実が求められているのか。アンケート結果によると、バスの本数が増えればさらに移動しやすくなるという実態がわかったという理解で良いのか。
事務局	今年の夏に地区別の懇談会を開催し、その際に実施させて頂いたアンケート調査の結果等にもとづいて地区別の整理を行っている。アンケートの中にバス路線の運行本数を充実させてほしいという意見があったため、このような記述となっている。この路線についてはイーグルバスの路線となっているため、堀米委員より補足事項等があればお願いしたい。
堀米委員	この路線は現在 1 時間に 1 本程度の運行となっている。東秩父村においても公共交通再編実施事業という調査事業を行っているため、その結果も踏まえて充実に向けたあり方を検討していきたいと考えている。
事務局	運行本数の充実については、イーグルバスとも話合いを進めていきたいと考えている。また、町としては少しでも自家用車利用から公共交通利用へ転換してもらえるよう、路線バス利用者数を増やしていくための施策を本計画の中に盛り込み、来年度以降実施していきたいと考えている。
山口委員	大河地区において路線バスは非常に重要であると思うが、路線を継続させるためにも利用者を増やしていかなければならない。この路線は小川町にとって重要な 1 本の柱であると捉えて良いか。
事務局	そのように捉えて頂きたい。
山岸委員	大河地区は細長い形状をしているため、路線バスの利便性の向上が望まれているのだと思う。目標①は本当に不便を感じている人に手を差し伸べるための目標ではないか。大河地区だけでなく、八和田地区にも公共交通空白地域が沢山ある。公共交通空白地域対策を第一に考えて頂ければと思う。
事務局	山岸委員のおっしゃる通り、大河地区の古寺や腰越では現在、路線バスは通っていないため事務局としても公共交通空白地域として把握している。そういった地区に住む町民の移動の円滑化に向けた新しい公共交通手段の導入を目指して目標①を掲げている。そのため、ご意見のあった地域についても目標①の中の施策で対応するものと捉えて頂きたい。 また、公共交通空白地域に関してはこの後ご説明させて頂く。

別　紙

田端委員	今年の夏に懇談会を開催したとのお話があったが、実施した地区は小川・大河・竹沢・八和田・東小川・みどりが丘の 6 地区か。例えば大河地区では腰越、古寺、下古寺、青山、竹沢地区では笠原、原川、勝呂、木呂子等で公共交通機関が通っていない。また、下里でも公共交通機関が通っていないところがある。できることならば 20 近くの地区で懇談会等を実施した方がより細かい事項まで把握できるのではないかと思う。
事務局	来年度以降、新しい公共交通施策の導入等に関する具体的な検討に入っていくと思うので、事務局としてもその段階で更なる町民意向の把握に努めていきたいと考えている。
尾崎会長	ではこれで公共交通の将来像に関する検討は終了させて頂く。
	【取組の方向性、取組の方向性に基づく施策について】 ～事務局より「資料１：小川町地域公共交通網形成計画（素案） 取組の方向性、取組の方向性に基づく施策」の説明　～
尾崎会長	続いて施策メニュー（案）に関する検討に移らせて頂く。 12 頁以降では、どのように公共交通を形成していくのかを考えた際の具体的な施策が目標ごとに整理されている。本日の資料はあくまでもたたき台であるため、多くのご意見を頂きたい。
山口委員	再度基本的な考え方を確認させて頂きたい。既存の鉄道や路線バスに対しては、利用者を増やすための施策を取りながらしっかりと維持していくことを基本とし、公共交通空白地域に対しては、新しい交通手段の導入を考えた上で既存路線の両立や費用面等を考慮してときがわ町や東秩父村で導入されているような、乗継方式が望ましいという考え方で良いか。
事務局	おっしゃる通りである。
山口委員	公共交通網の将来像図では公共交通空白地域の新たな交通として、ピンク色の点線の矢印が入っているが、直接小川町駅までつながっているものと地域の拠点となる乗継場所につながっているものの 2 種類がある。この違いは距離的な問題なのか。
事務局	ピンク色の点線については、おっしゃる通り距離の問題がある。加えて、実際に何らかの新しい公共交通手段を導入する場合には、既存路線と競合しないよう配慮しなければならない。そのため、一度エリアを決めて実証実験を行い、その状況等を踏まえてどこまでをつなげるのか等、より良い方法を検討していく必要があると考えている。
山口委員	今回資料で紹介されている東松山市の例では、市内循環バスを走らせても利用者はあまり多くない。また、デマンドタクシーの実証実験の結果を見ると、補助額は約 190 万円と抑えられているが、登録した方が約 1,500 人いる中で、実質的な利用者は約 22%の約 340 人に留まっている。こうした状況を見ると、交通手段を用意しただけで町民が利用してくれるわけではないのではないか。そのため、乗継の停留所や拠点の考え方を丁寧に検討した方が良いと思う。大河地区や八和田地区等の中心市街地から距離のある地区では、まず拠点に行き、乗り換えて小川町駅に行くことになる。乗継場所自体に 1 つの目的が無ければ、駄目だと思う。東松山市の事例を見ても乗継があることで利用者数が落ちていると思う。ときがわ町でも思うように利用者数が伸びていないという話を聞いている。八和田や上古寺等では地域コミュニティが壊れかけており、もう一度地域のつながりを深めたいと

別　紙

	思っている地域だと思う。本計画の検討と併せ、都市計画だけでなく町全体の問題として、拠点となる場所でコミュニティが発生するような仕掛けを並行して検討することが重要だと思う。小川町駅まで行かなくても地域の拠点で目的が達成され、さらに想いが膨らんだといったことをできるようにする方法を考えなければならない。既存路線も公共交通空白地域を解消するための新たな交通手段も大切なので、どちらも存立させるためには乗継方式しかないと思う。乗継場所に関しては、ただ屋根をつけて時間を潰せるようにするだけでは不十分であり、乗継場所で目的が果たせるようにしなければ、他自治体と同様に利用者が伸びないような状況になってしまうのではないかと心配している。先ほど、田端委員よりご提案のあった地域ごとの丁寧な意見聴取は、このような観点からも行っていった方が良いのではないか。
事務局	町としては、都市政策課だけではなく全課で検討していかなければならないと考えている。そして、商工会の協力も頂きながら、町を挙げて取り組み、公共交通を利用して出かけたくなるようなまちづくりを進めていきたい。 また、大河地区に関してはパトリアおがわを乗継拠点として、腰越地区からパトリアおがわまで矢印を伸ばしている。現状の公共交通網の将来像図では拠点までで止まっている矢印もあるが、今後の検討によって拠点までではなく駅まで伸ばしたり、地域拠点同士をつないだりすることも考えられるため、今後も引き続きご協議頂きたい。
山岸委員	現在、八和田地区の拠点は八和田の農協のバス停を乗継拠点として考えているのだと思う。バスが公民館の方に回り、公民館で降ろしてくれれば良いが、農協のバス停は傾斜があり、車もスピードを上げて走っているため、多少の整備をしても危険だと思う。もう少し広い所で乗継ができるように検討しなければ、交通事故等の危険性がある。
事務局	ご指摘の通り、現在の乗継拠点は八和田の農協のところにある国際十王交通のバス停を想定している。現状では上屋も無い状況であるため、乗継拠点の整備を施策メニューに挙げている。施策メニューの中では、予算面等の関係で整備箇所や整備時期までは明示できていないが、順次停留所を整備していき、うまく乗継げるよう整備を図っていきたいと考えている。
尾崎会長	施策が複数挙げられているため、併せ技で対応していくということだと思う。
小澤委員	17 頁をご覧頂きたい。①－4 ではトイレの設置が位置付けられている。トイレの設置は非常に必要なことだと思うが、どのような方法でトイレが設置されるのか。また、衛生面に関してはどのように管理されるのか。
事務局	例えばパトリアおがわであれば、施設内のトイレを使わせてもらうというような方法を考えている。また、拠点の近くに使用できそうなトイレが無い場合は、新設も検討しなければならない。新設となった場合には、清掃等の衛生管理についても検討しなければならないと考えている。
石川委員	地域公共交通網形成計画はなるべく具体的な内容を記載してもらうようにお願いしている。可能な限り具体的で明確な目標の設定、具体的な数字目標による方向性の明示、実施施策とそのスケジュール、PDCA サイクルに従った達成状況の評価等が計画の構成要件となっている。今提示されている資料を見ると、方向性としてはこれで良いと思う。しかし、各論に入るための細かい計画が見えない。例えばどのエリアで新たな交通手段を導入するのか、実証実験はどのように実施するのか、既存の路線バスとの共生はどのようにやっていくのか等をもう少し明記していく必要があると思う。次回、目次にある「当面実施

別　紙

	を目指す施策の概要」の部分で議論すると思うが、すでに各論の意見も出てきているため、意見させて頂いた。
事務局	本日は施策メニューの絞り込み等をして頂き、本日のご意見を踏まえた上で次回の協議会で具体的な資料を提示していきたいと考えている。
尾崎会長	委員の皆様からは主に地域の詳細な事項についてのご意見を頂いた。今後はさらに具体的な検討になっていくため、本日の会議で事務局の考える素案の中で不足している所や修正した方が良い所等をご指摘頂いた上で、次の案を作っていく流れとなる。
広井委員	近隣の事例をもう少し分析した方が良いのではないか。現在、バスを乗り換えるという案も出ているが、川島町等では実証実験を行ったが計画がうまくいかず、取りやめになっている。実証実験を行うにも費用がかかるため、実施する前に近隣事例を調査・分析することが大切だと思う。
山口委員	ときがわ町と東秩父村を通っているバス路線は基幹的なバス路線として資料に載っているが、今後の路線の継続性は問題ないか。小川町が基幹的なバス路線にしたいと考えても、ときがわ町や東秩父村の計画と一致していなければ成立しない。
事務局	東秩父村では昨年地域公共交通網形成計画が策定され、今年度は再編実施計画の策定が進められている。小川町と東秩父村をつないでいるバス路線については、小川町と同様に基幹として位置づけられている。ときがわ町においてはすでにデマンドバスを導入し、公共交通網の再編が行われている。小川町とときがわ町を結ぶバス路線については、ときがわ町においても幹線として考えられている。
堀米委員	今、ご説明があった通り、ときがわ町及び東秩父村におかれては、協議会等で話し合いを進めているところであり、基本的には各方面の拠点となる駅が小川町駅であるため、小川町駅を含めた形で広域的な観点から話し合いが行われている。既存路線については、本数の見直し等はあるかもしれないが、路線の維持確保を前提に進んでいる。 また、ときがわ町においてはデマンド交通を含めた路線の再編を平成 22 年 10 月に実施した。交通不便地域の解消と、既存の路線バスの維持確保を目標に再編を行い、山間部の交通不便地域の一部では、ドアツードアではなく路線バス型デマンド交通を導入し、まちの中心のせせらぎバスセンターまでつないでいる。せせらぎバスセンターの周辺には役場の第二庁舎やＪＡ等の施設はあるが、中心的な市街地を形成している場所ではない。乗り換え拠点としての整備をしてもらっている。当初は乗り換えについて、我々が想定する以上に住民の方々の反対、抵抗があった。本数の拡充やわかりやすい運賃設定等を行うと同時に、町役場の方にも協力頂いて各地域で住民に対する丁寧な説明を行ってもらい、こうした細かい取組みによって運行開始から 3 年程度経たところで定着してきているところである。しかし、協議会には出てきていないが町の中では今もドアツードアを望む意見が出ているという話も聞いている。先ほど、近隣事例に関する意見が出されたが、近隣では事例があるため、事務局の方で検討しながら計画策定を進めて頂きたい。 また、別件になるが、町の上位計画との整合についても検討していく必要があると考えている。このような交通政策はどのような位置付けになるのか。小川町においては、行政施設や公共施設、基幹的な病院等が比較的町の中心に立地しており、すでにある程度コンパクトシティとなっている。まちづくりの観点と交通の再編についての整合についても検討していく必要がある。
事務局	現在、小川町では上位計画である総合振興計画の見直しを行っている。また、整合性を図

別　紙

	るべく、都市計画マスタープランの策定を進めている。地域公共交通網形成計画はこの 2 つの計画と整合性が図られた計画となるよう策定を進めていく。また、施策メニューも上位計画を踏まえて提示させて頂いている。
石川委員	実証実験について教えて頂きたい。ある程度は計画が固まっているのか。
事務局	実証実験については、来年度もしくは再来年度の実施を考えている。実施方法や実施地域、対象者等については、協議会の中で検討していきたいと考えている。
石川委員	実証実験については、地域公共交通網形成計画の中にある程度具体的に書き込んで頂いた方が良い。どのエリアで実施するのかや、導入台数等まで書き込めるとよい。実施エリアについては、できれば地域に手を挙げてもらった上で選定した方が望ましい。せっかく新しく始める事業を維持していくためには、利用者の協力が前提となる。実証実験をやりたいという地域に手を挙げてもらえれば、その地域が活性化していくと思う。
田端委員	何十年も前から言われていることであるが、小川町駅北口の開設は実現するのか。また、南口についても安全性や快適性の向上が施策として挙げられている。小川町駅は朝と夕方の車の数が東上線界隈では一番多いと聞いている。先日も駅前で帰宅時間帯に多数の一般車両が停車しバスが出発時刻になっても出発できないという状況があり、一般車両のドライバーとバスのドライバーがトラブルになっていた。そういったトラブルは頻繁に発生しているため、交通業者としては早急に対応してほしい。 先ほど、実証実験の話があったが、実証実験も色々な方法がある。タクシー会社の立場からすると東松山市等の方式が一番やりやすい方式となる。
事務局	小川町駅の北口整備については、いつできるという回答はできないが、町としては取り組みを進めている。南口についても北口と並行しながら取り組んでいかなければならないという認識を持っている。北口整備を先行的に考えているが、将来的には南口も整備しなければならないと考えている。 実証実験については、色々な方法があると思う。事務局としては、まずは委員の方々の意見を聞いてからまとめていきたいと考えている。
尾崎会長	委員の皆様からは会議の場でご意見を頂いているが、更に資料を読んでもらった上で意見を頂く機会を設けることは可能か。
事務局	今回の協議会だけでは時間的にも限りがあるため、事務局で意見記入シートを作成・配布させて頂くので委員の方々には今一度資料を読んで頂き、ご意見を頂きたいと考えている。そこで頂いた意見を踏まえ、さらに詳細な案を作成したいと考えている。
尾崎会長	これだけ大きな会議だと時間の関係で発言する機会を持てなかった方も出てきてしまう。改めて書面を通じてご意見を出して頂ければと思う。
山岸委員	先ほど、実証実験の実施エリアは地域に手を挙げてもらって選定すべきとのお話もあったが、12 月に区長会があるため、区長会の場でこの計画についての説明を行い、区長さんから地域に周知してもらっても良いか。また、現在 65 歳以上の独り暮らしの方を対象に民生委員を通じてアンケートを取っている。もっと広い範囲でアンケートを取ることも必要だと思うが、そのようなことを実施する前に区長さんから地域に発信しても問題無いか。
事務局	是非行って頂きたい。
柳田委員	ＪＲの現状についてお話させて頂きたい。現在、ＪＲ小川町駅の利用者は 1,200 人程度と

別　紙

	なっており、年々乗降人員は減少してきている状況にある。社会保障人口問題研究所が出した 2040 年の人口予測をＪＲに当てはめてみると、4 割近く減少し 800 人弱の利用者となってしまう予測となっている。是非鉄道の利用を促進してもらえるような施策を実施してもらいたい。ＪＲとしては観光イベント等の情報発信等はできるが、まちづくりや人口問題、少子化対策等は自治体のご協力でやって頂かなければならない問題だと考えている。
事務局	町への来訪者が増えるようなイベントの開催等、全課を挙げて既存の公共交通の利用者を増やしていくような施策を考えていきたい。乗降者数の増加に向けて今後も交通事業者の皆様と協議をさせて頂ければと思う。
宮﨑委員	先ほど、川島町の話が出たが、川島町では既存のコミュニティバスがあった中で、デマンド型交通を導入する実証実験を行ったため、利用者に混乱を招いてしまったという背景があった。川島町ではそういった様々な要素が重なり、うまくいかなかった。逆に、ときがわ町は様々な要素が重なってうまくいった事例である。ときがわ町でなければあそこまでうまくいかなかったと言えるくらいである。他の自治体がときがわ町と同じ方法で実施して必ずうまくいくかというと、それはわからない。町の事情をよく知っている皆さんが他自治体の事例を頭の隅に置きながら、小川町に合った計画をゼロベースで作っていくことが一番良いと思う。
尾崎会長	引き続き情報提供をお願いしたい。 それではこれで本日の議事を終了したいと思う。本日の配布資料及び議事録については公開として良いか。
一同	（承認）
尾崎会長	それでは公開とさせて頂く。 最後にその他について、事務局より連絡があればお願いしたい。
事務局	3 点連絡がある。 1 点目に、施策メニューについては引き続きご意見を頂きたいと考えているため、事務局で意見記入シートを作成し、委員の皆様にお送りさせて頂く。期限は 12 月下旬を考えている。 2 点目に、協議会の回数については 1 回追加開催とすることをお願いしたい。次回の協議会は 1 月 26 日（火）午前 10 時よりリリック小川 1 階集会室での開催を予定している。皆様のご意見を踏まえた形で今回よりもさらに具体的な案を提示させて頂きたい。 最後に、現在民生委員の方々にお願いして 65 歳以上の独り暮らしの高齢者約 950 人を対象に聞き取り調査を実施している。聞き取り調査では、どのような交通手段を利用しているか等を調査しており、今後取りまとめを行い、新しい公共交通手段導入に向けた検討材料として皆様に情報提供をしていきたいと考えている。
尾崎会長	それではこれで会議を終了したいと思う。 以上